

企画名：脱ネオニコで地域活性化

団体名：猪瀬 聖

1. 報告要旨

欧米主要国の間では「脱ネオニコ」の流れが急速に進むが、日本では脱ネオニコどころか、逆に規制緩和が繰り返されてきた。大きな要因の一つは、ネオニコが自然の生態系や人にどんな深刻な影響を与え得るかということが日本ではまだ、一般にはほとんど知られていないからではないか。そうした問題意識に基づき、助成金を活用して広報・社会訴求活動を行うことにした。

手法としては、まず、ネオニコ研究の第一人者らに取材し、人への影響を平易な表現でまとめ、オンラインメディアなどに記事として発表。さらに、脱ネオニコに取り組む地域を取材し、その様子を記事化。これにより、ネオニコ問題を身近な問題として感じてもらい、社会全体のネオニコへの関心を高め、人々の行動変容につなげることを試みた。

具体的には、絶滅したコウノトリの復活に成功した兵庫県豊岡市や、やはり絶滅したトキの復活に取り組む新潟県佐渡市などを取材。自治体、農協、農家らが互いに協力し、地域を挙げて脱ネオニコに取り組んだ結果、絶滅野鳥の復活に成功しただけでなく、観光客の増加やネオニコ不使用米の生産・販売などを通じて地域経済の発展、知名度アップにも貢献している様子を記事化した。

また、神戸大学大学院教授の星信彦氏や、発表論文が欧州連合(EU)のネオニコ規制強化に大きな影響を与えた木村一黒田純子氏ら第一線の研究者に取材。ネオニコの問題点を改めてまとめると同時に、現在進行中の政府による「農業再評価」の話題もからめて、日本の農業行政の構造問題にまで踏み込む記事を発表した。

さらには、ネオニコ不使用の米や野菜の販売で売上高を大きく伸ばしている生協「コープ自然派」や、市民の協力を得ながら脱ネオニコに取り組む団体「デトックス・プロジェクト・ジャパン(DPJ)」などを取材し、記事化した。

DPJの調査の結果、多数の小学生の尿から複数のネオニコ成分が検出されたことをまとめた記事は、Yahoo!ニュースで15万を優に超えるアクセスを記録するなど大きな反響を呼んだ。他の記事も大半が1万~2万前後のアクセスを記録するなど、それなりの訴求効果は認められた。

一方で、時間的制約などから取材がかなわなかった地域や取り組みもあった。助成を得てこの1年間、行ってきた取材を通じて得た情報や知識、培ったネットワークを生かし、今後もネオニコ問題の取材をさらに続けていく考えだ。

2. 成果物

1. 「[復活したコウノトリのペアはなぜここを子育ての地に選んだのか《シリーズ・ネオニコチノイド問題を追う》](#)」 Yahoo!ニュース (2023.8.1)
2. 「[絶滅した国の天然記念物はなぜ劇的復活を遂げることができたのか《シリーズ・ネオニコチノイド問題を追う》](#)」 Yahoo!ニュース (2023.7.7)
3. 「[国の特別天然記念物トキを蘇らせたのは持続可能な農業だった《シリーズ・ネオニコチノイド問題を追う》](#)」 Yahoo!ニュース (2023.9.23)
4. 「[洗っても落ちない農薬がEUで禁止に 日本はどうする? 《シリーズ・ネオニコチノイド問題を追う》](#)」 Yahoo!ニュース (2023.12.29)
5. 「[10年で組合員数も売上高も倍増 関西の小規模生協なぜ人気《シリーズ・ネオニコチノド問題を追う》](#)」 Yahoo!ニュース (2024.1.10)
6. 「[小学生の尿から殺虫剤成分を検出 民間団体が50人に調査 対策の必要性訴え](#)」 Yahoo!ニュース (2024.3.19)

- | | |
|-----|---|
| 7. | 「 脱ネオニコでコウノトリが復活 」『食品と暮らしの安全』 No.413 (2023.9) |
| 8. | 「 佐渡島ではトキが復活 」『食品と暮らしの安全』 No.415 (2023.11) |
| 9. | 「 水道水からネオニコ 」『食品と暮らしの安全』 No.416 (2023.12) |
| 10. | 「 ネオニコ規制強化、望み薄 」『食品と暮らしの安全』 No.419 (2024.3) |